

特集：養鶏

「おいしい」の音が 綾瀬の卵を支えます

課農業振興課
☎70・5622

食卓に並び卵。その一つ一つには、生産者の愛情が注がれています。畜産の盛んな綾瀬で、地産地消が進み、その潜在力に期待が寄せられているのが養鶏業です。綾瀬では、3戸の農家が養鶏を営んでいます。良質の卵を供給する生産者の取り組みや思いなどを紹介します。

**市内採卵農家3戸が
約4万5千羽を飼育**

養鶏には採卵と食用用があり、綾瀬の場合は採卵農家になります。

綾瀬に採卵養鶏が入ってきたのは大正期で、昭和初期には千羽程度が飼育されていました。戦時下の混乱期には100羽前後まで減少したものの、戦後の食糧増産の時代には、7戸の農家により2千羽から3千羽規模で飼育されるようになりました。

昭和30年代に入ると、平場飼育(野放し)から立体飼育(鶏舎)の方式になり、農家も20戸になるとともに羽数も増加し、外国種など



は最高の栄養食品。
たちの思いが
詰まっています。



良質の卵を生産し、消費者に提供しようという共通の思いがあります。

細谷物産直売所

大正5年に曾祖父が養鶏を始め、現在、(有)細谷物産で事業を営む細谷健一さん(47歳、上土棚中)は、



細谷健一さん

卵の生産・直売のほか、プリンなどの加工品も開発・販売しています。

良い卵を消費者へ 生産者共通の思い

綾瀬の養鶏を支え続けている3戸の農家。たゆまない努力で、綾瀬の卵を守っています。規模や事業展開はそれぞれ異なりますが、

「健康な鶏は、良質の卵を産みます。鶏にストレスを与えないよう、細心の注意を払って飼育管理をしています。鶏の生息を熟知することが大切ですね」と、飼育の要領を話します。

鈴保養鶏園直売所

昭和25年から養鶏を始め、昭和39年に法人となった(有)鈴保養鶏園の代表取締役が、鈴木光雄さん(63歳、上土棚中)です。

卵の生産・直売のほか、プリンやケーキなどの加工品も多数開発・販売して

よってカロリーを調節しているほか、オリゴ糖を入れて腸内環境を整えています」と、飼料の特長を挙げます。

同社では、プリンなどの加工品も開発し、平成21年から販売を開始しました。「当社の卵の良さを多くの人に知ってもらいたい」と、開発した当手を振り返ります。

自慢の卵を惜しみなく使用した濃厚な味わいのプリンは評判が高く、同社の直売所のほか、「てらおの直売所(寺尾西)や市役所内の喫茶室でも販売しています。

「今は、養鶏も厳しい時代です。それでも、直売などでお客様から『おいしい』という声を直接聞くと、励みになります。親しいお客様も多く、皆さんの声や期待に応えられるよう、これからも着実に事業を展開し、安全・安心で良質の卵を提供していきたいです」と、展望を話します。

います。

「25年ほど前に、ドイツで普及していたウインドレスという鶏舎を導入し、自然換気で内部の空気を自然に循環させるなど、良好な状態で効率的に鶏を飼育できるようにになりました。鶏舎内での密集を避けたり、腸内細菌叢を整えたりすることで、健康な鶏が良質の卵を産んでいます」と、飼育の様子を話します。



鈴木光雄さん

昨年12月から、自社開発の加工品の販売も始めました。プリンをはじめ、卵焼き、シュークリーム、ロールケーキ、焼き菓子など、種類は豊富。直売所のショーケースを彩っています。

「都市近郊で生き残るには、卵のみでは難しいという思いがあり、加工品を開発しました。プリンは卵をたっぷり使用し、砂糖を控え目にしていきます。高齢の方にも『食べやすい』と好評です。栄養価も高く、『スイーツ』の枠を超えて、機能食としてもお勧めです」と、加工品に取り組んだ経過などを説明します。

「卵はその中でひよこが育つほど、タンパク質をはじめとして栄養価が高く、栄養食品としては最高です。卵を食べれば元気になりますよ」と、卵の良さをアピールします。

澁谷養鶏農場

約50年前に父親が始めた養鶏を若くして継承し、



鶏は生まれてから5カ月目で卵を産み始め、1日に1個程度を1年半ぐらい産み続けて、ちょうど2歳ぐらいで産む仕事を終えます。

の後40年にわたって事業を営んでいるのが、澁谷養鶏農場の代表を務める澁谷朗さん(59歳、吉岡)です。



澁谷朗さん

飼育している鶏は「ハイラインソニア」が約85%で、「ポリスブラウン」が約15%。ハイラインソニアが産む「ピンク卵」は、その名が示すように殻が薄いピンク色になっており、綾瀬周辺地域では珍しい卵です。

「鶏の飼料は、遺伝子組み換えがされず、収穫後は農薬を一切散布していないものを使用しています。鶏の健康管理は徹底して行っています」と、安全性の高さを特長に挙げます。

卵は同農場での直売のほか、自動販売機でも販売しています。

「17年ほど前に、清水市内の養鶏場を視察する機会があり、そこでは自動販売

当たりしに、当農場での導入を即決しました。今では、当農場の広告塔のような存在になっています。実感はありませんが、知人からは『いつも車が止まっている』と言われます」と、自動販売機導入の経過や利点を話します。

安全・良質な卵を追求する一方で、「当然、飼料代は高くなりますが、単純に価格へ反映することはできません」と、苦悩も顔をのぞかせます。

「市内に限らず、近隣の市や遠方からも買い求めがあります。そうしたお客様の『おいしい』という声は、何ものにも代え難いですね」と、喜びを表します。

消費者の声が 何よりの励み

それぞれの農家が工夫や努力を重ね、生産している綾瀬の卵。今日も、私たちの食卓に並んでいることでしょうか。「おいしい」という声が何よりの励み。それぞれの農家こ共通する思